



寫鳴藏一花臺下

至急に報復請願

女

三田蘆丹

其年四月十日午下四時

吾母所傳秘法亦傳可候及

此方先別言事之如左

増下夜外也路一ハ

つまむおまろ置中次男

後之遺言もあへし至事年
が

以家お兜り此不友意今

保完の事静 此の事

右方



三
此家宛の私不友高亭令

陽宅の屋静一 翁出

一及のあ光次へ奉る

如きうのあを奉る是

く至る不徳書あり風

眉く上書院書院へ

此方付く一物具

廿六辛酉月廿日

午不學

清隆寺

高島大兄お右

二神也あり南邊の取娘

真探友娘よりく

一也及此の筈然の

たうかう目録在り

飛舟行 一 旅具

廿六年四月廿日

午不學

清謹

高島大兄方右

二 申七 未の 南邊の 取娘

真珠 左 娘より

一 也 及 此 一 筋 世 の

た ち 何 し 目 黒 在 たり

取 見 清 申、 附 北 邊 へ 寄

た ち 方 右 邊 の 只 一 人 寄 寄 系

也 夫 礼 を 不 成

を 不 成 也